

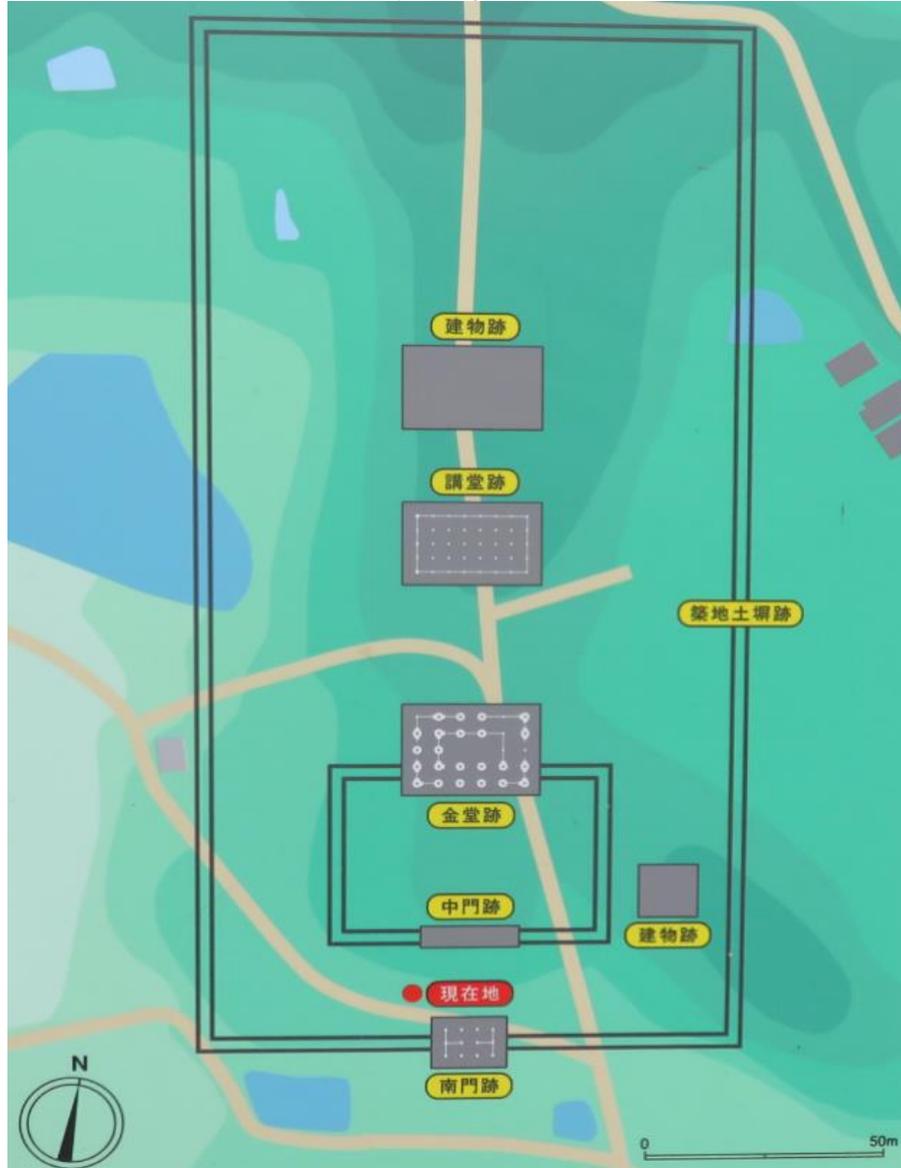
備中国分尼寺跡(総社市)

ここは南門跡/寺域の南辺中央に設けられた南門の前には、幅6mの古道(古代山陽道?)が東西に走っていたと云う/約500m西に備中国分寺が所在する

[video](#)



伽藍配置図



南なん門もん跡あと

備中国分尼寺の表玄関にあたる門跡で、寺域を囲む南側の築地ついでの中央に位置していました。

残存する三個の礎石そせきや基壇きだんの大きさをからみて、門の規模は桁行けたゆき三三尺（約一〇メートル）、梁間はりま二〇尺（約六メートル）程度であつたと推定されています。

この門は、仏をまつる神聖な寺域と俗界を結ぶ重要な役割をもっており、南側には幅二メートルの砂利敷じかりじきの道が東西に走っていました。

前方は中門跡/手前に説明板が立っている

 video



天平時代の伽藍は、南門・中門・金堂・講堂が一直線に配され、壮大な規模を誇っていたと推測されているが、南北朝時代の戦火で焼失し廃寺になったらしい

国指定史跡 備中国分尼寺跡

Nationally Designated Historic Site Bitchu Kokubun-niji Temple
 国家指定古迹 備中国分尼寺遗址 / 國家指定古跡 備中國分尼寺遺址
 국가 지정 사적 빗추코쿠분니지 절터

- 所在地 岡山県総社市上林・宿
- 指定年月日 大正11(1922)年10月12日



軒丸瓦
Round eave tile

天平13(741)年、聖武天皇は仏教の力で戦乱や疫病などの災いから国を守るという鎮護国家の考えにもとづき、国分寺と国分尼寺の建立を全国に命じました。これが「国分寺建立の詔」です。備中国では、この場所に国分尼寺、約500m西に国分寺が建てられました。

備中国分尼寺跡では、金堂などの建物の礎石が地表面に露出し、周囲を取り囲む築地土堀の跡も良好に残っており、現在も見ることができます。

現存する築地土堀跡から、寺域は南北216m、東西108mと復元でき、その境内には、南から北へ、南門・中門・金堂・講堂が一直線上に並んでいます。なお、南門の前には東西に延びる当時の道の存在が発掘調査によって確認されました。

見つかった瓦から、備中国分尼寺の創建は備中国分寺と同じ8世紀中ごろと考えられます。

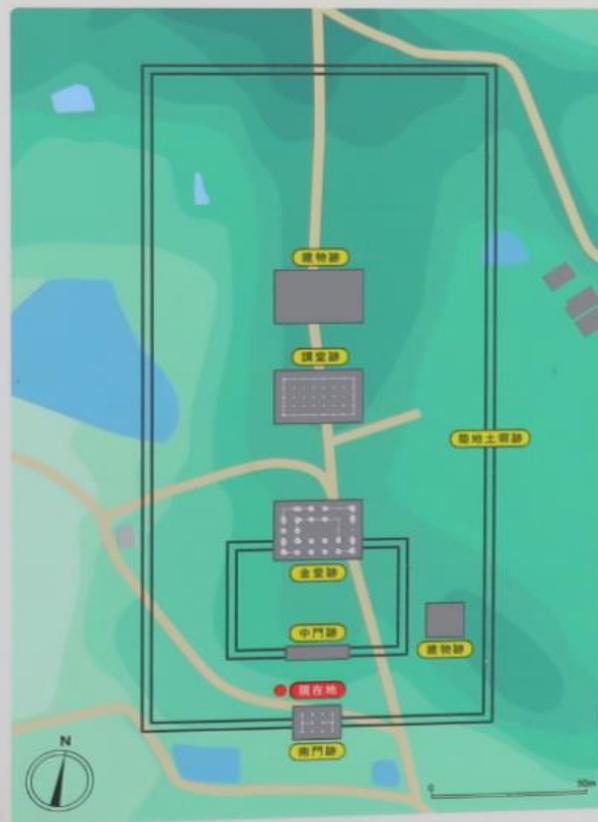
平成27年9月 岡山県教育委員会

In the year 741, Emperor Shomu ordered the construction of Kokubunji and Kokubun-niji Temples throughout the country. This is known as the "Kokubunji Construction Decree". In the Bitchu Province, Kokubun-niji Temple was constructed at this site, and Kokubunji Temple was constructed at another site approximately 500 metres west of here.

At Bitchu Kokubun-niji Temple site, the building foundations stones are exposed above ground level, and the remains of the surrounding tamped-earth wall with roof are preserved in good condition and are able to be viewed even now.

The temple grounds have been restored to extend 216 metres from south to north, and 108 metres from east to west. Within the grounds, the south gate, inner gate, main hall, and lecture hall stand in a straight line from south to north. Furthermore, an excavation survey has also determined the existence of a road which originally stretched from east to west in front of the south gate.

Bitchu Kokubun-niji Temple, like Bitchu Kokubunji Temple, is thought to have been established sometime around the middle of the 8th century.



足元には標柱が立っていた



左手を見ると、築地土塀跡が土塁のように残っている



築地土塀跡

備中国分尼寺は東西一〇
ハメートル、南北二一六メ
ートルの寺域を有し、その
周囲には築地土塀をめぐら
せていました。ここにはそ
の基部の痕跡をみることに
できます。

こな塩梅



西側にもこんな感じで続いていた



さて、ここが中門跡

 video



中門跡

ここには南北三・八メートル、東西二・一メートルの基壇の遺構があります。礎石は残っておりませんが、基壇の遺構からみて、中門は東西に細長い門であったようです。この中門と金堂の間には回廊で囲まれた一八〇〇平方メートルほどの平坦な広場が設けられました。

前方は金堂跡/南側から北方向に見たところ

[video](#)



金堂跡

備中国分尼寺の本尊をまつつていた建物跡で、寺域のほぼ中央に位置していました。

直径約七〇センチメートルの円形の柱座や地覆座をもつ大形の礎石が、ほぼ当初の位置に現存しており、創建時の建物は桁行五間（約二〇メートル）、梁間四間（約一三メートル）であったことがわかります。

礎石から推定される柱の太さは約七〇センチメートルで、極めて雄大な建物であったことが想像されます。本尊は中央の奥まつた位置に須弥壇を設けて安置されていました。

金堂の礎石が見て取れる

 video



前方は講堂跡/説明板が見える

 [video](#)



講堂跡

講堂は仏教を学ぶ施設であり、
古代の寺院では重要な伽藍のひとつ
つでした。

現存する礎石は二個を数えるた
けですが、基壇と考えられる盛り
土の範囲や礎石の作りから推定す
ると、講堂の規模は金堂とほぼ同
じであつたと考えられます。

講堂跡から振り返って金堂跡方向を見たところ



講堂跡の先(北方向)には「建物跡」と記された説明板が立っていた

 video



建物跡

ここには金堂や講堂と同じく東西約二〇メートルの基礎跡とみられる整地面があり、何らかの建物があったことが推定されます。伽藍の位置関係からみて、尼房か、あるいは食堂であった可能性があります。

そこから講堂跡(南方向)を見たところ



これは寺域の中央東側辺りにあった地藏尊の覆屋



そこから東側を見ると、築地土塀跡と思われる土塁状のマウンドがあった



その右手には説明板が立っていた/築地土塀跡は東辺に沿ってこちらにも続いている

[video](#)



建物跡

ここには一辺一二メートルばかりの方形基壇の遺構があり、場所から塔跡ではないかと考えられていました。しかし、基壇が小規模であり、礎石も小さく、鐘楼か経蔵など別の建物がたっていた可能性があります。

近くにはこんな標柱も立っていた



参考ホームページ

<https://tabioka.com/bitchu-kokubun-niji-ruins/>

<https://okayama-labo.net/kokubunniji/>

<https://yutaka901k.choitoippuku.com/page5eax04.html>

<http://kphodou.web.fc2.com/znaga/nagavama-21c-kokuni.html>

